

<ワクチン副反応に関する対応・相談体制>

- ①あらかじめ動画+Q&A集などを参照し副反応について理解していただく
- ②接種時に動画・Q&A集QRコード付きの説明資料を配布する
- ③心配な場合は近隣の薬局で相談していただき、薬で対応または受診勧奨
- ④市の電話相談でも対応
- ⑤必要時日中は各医療機関、休日夜間は休日夜間診療所で電話相談・必要に応じ診療
- ⑥発熱・倦怠感などが続きコロナ感染が疑われる場合は必要に応じ発熱外来で検査
- ⑥アナフィラキシーや重篤な副反応が疑われる場合は救急外来へ

<相談対応手順>

- ①コロナワクチン接種後の副反応疑い相談であることを確認
- ②息苦しさ・意識障害・急に進行する症状（倦怠感や発疹など）の有無の確認
→+なら救急要請
- ③症状・経過を確認
- ④接種日時、回数、接種場所および接種したワクチンの種類を確認
- ⑤年齢・性別・基礎疾患の有無・当日の体調を確認
- ⑥動画・Q&A集、説明資料確認の有無を確認
→以下の症状に分けて指示

A) アナフィラキシーなど重篤な副反応

- ・強い息苦しさ
 - ・顔や喉の腫れ
 - ・めまい・動悸と意識の低下
- 救急要請または救急外来受診

B) 免疫ができるときの反応

接種部位の腫脹・疼痛、倦怠感・発熱・頭痛など
→経過観察または薬局・医療機関へ

C) B)が増悪または数日以上続く場合や上記以外の副反応

→医療機関へ相談・受診

<薬局での対応の注意点>

・免疫ができるときの反応について、発熱・疼痛などに対してはアセトアミノフェン・イブプロフェンなどの使用は必要に応じて可能なため、適宜OTCの内服指示などを行ってください。ただし、接種前の予防内服については、確証はありませんがワクチンの効果に影響する可能性があるため推奨はされていません。

<一回目の接種で副反応が強かった場合の相談について>

・二回接種が必要なワクチンを一回だけ接種した場合に得られる免疫は限定的であると考えられることから、一回目の副反応が強かった場合でも、明らかなアナフィラキシーなど重篤な副反応とされ、医師から二回目の接種を控えるよう指示された場合以外は、二回目も接種を受けることが推奨されている。ただし、二回目はより副反応が強く現れる可能性もあり、接種翌日仕事量を減らすか休みを取るなど必要に応じ可能な対策を検討するよう勧める。

<副反応が少なかった場合の不安への対応>

・副反応が少なかったためにワクチンの効果が期待できないのではないかと不安になり相談されるケースについては、免疫ができる時の反応には個人差があり、副反応が少ないからといって効果が少ないわけではないことを伝える。

<参考>

①NPO法人Reconnect新型コロナ情報チャンネル(YouTube)



②コロナワクチンQ&A集



<相談時の流れ(参考)>

